

ISSN 0387—7280

国際日本文学研究集会会議録(第7回)

**PROCEEDINGS OF THE 7th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

(1983)

**国文学研究資料館
NATIONAL INSTITUTE OF JAPANESE LITERATURE**

情報資料室

**PROCEEDINGS OF THE 7th INTERNATIONAL CONFERENCE
ON JAPANESE LITERATURE IN JAPAN**

1983

National Institute of Japanese Literature

1-16-10, Yutaka-cho, Shinagawa-ku,
Tokyo, 142

目 次

あいさつ	小山 弘 志	3 頁
写真集		5 頁
研究発表(1)		
王朝散文の凝集性 ——時制とアスペクトを中心に——	Charles J. Quinn, Jr.	9 頁
源氏物語における虚構の方法	根 来 司	30 頁
挿詩文の系譜 ——日本文学史試論——	古田島 洋 介	40 頁
研究発表(2)		
今出川晴季伝 ——豊臣・徳川政権交替期を生きた一人物——	松 原 一 義	53 頁
戦争と詩 ——与謝野晶子から山之口獏まで——	Steve Rabson	73 頁
公開講演会		
十八世紀諷刺文学の韓日対比考察 ——朴趾源と平賀源内を中心に——	金 一 根	88 頁
自伝 ——東と西——	佐 伯 彰 一	102 頁
記録		
日 程		118 頁
参加者名簿		120 頁

国際日本文学研究集会委員会委員名簿..... 123頁

あ い さ つ

本日は研究集会に御参加下さいましてありがとうございます。

昨年は当館の十周年でございましたので、この研究集会も4日間行いましたが、今年はまた例年にもどって今日と明日、2日間の日程でございます。

最初に、プログラムに若干変更がございますので、そのことをまずおことわりしたいと存じます。

大きな変更として、明日2日目にコペンハーゲン大学の長島要一氏の発表を予定しておりましたが、同氏がどうしても来日できなくなりましたので、まことに残念でございますが、このセッションをカットいたします。

関連したことをもう一つ申し上げます。当初はお二人一組の4つのセッションを予定したのでございますが、中国からの方がお二人、やはり来られなくなり、これはプログラム印刷前でしたので、プログラムを変更いたしました。本日の第2セッションがお一人の発表になっているのはそのためでございます。

また、このあとの座長に予定しております当館の福田教授が風邪で声が出ないということですので、当館の伊井助教授に変更させていただきます。それから、展示説明・利用案内を行なう予定の本田教授も健康を害して入院され、最近退院されたのですが、本日は岡助教授に代っていただくことにしました。

以上、当初考えたプログラムとはかなり変更せざるを得ないことになりました。御了承いただきたいと存じます。

プログラムをごらんいただきますと、展示説明・利用案内のところで休憩を含めてかなり長く時間をとっていることがおわかりかと存じます。実はここで当館のコンピュータについて御披露をしたいと考えております。当館ではかねてから情報処理にコンピュータを利用して来たのでありますが、この11月初旬にコンピュータを大きな機械に更新することができました。それに

よって論文をオンラインで検索することができるようになりました。実際にサービスするまでにはまだ時間がかかるとは思いますが、どういうことができるかということをお目にかけてみたいと存じます。

さて、当館も10年を経過いたしましたいろいろなことが整ってまいりました。一番大きな仕事であります江戸時代の末までの主として国文学の文献資料をマイクロフィルムで集める仕事は、まだ全体から見れば一部分に過ぎませんが、既に5万点を超えましたし、またそれらを研究者の利用に供するという仕事も着実に進められ、登録者の総数が7月に一万人を突破いたしました。

このような業務とともに、当館は海外の学者との交流を行ってまいりまして、この国際日本文学研究集會も第7回を数えるに至りました。これまでは主としてこの時期に日本の国内にたまたま来ておられる海外の方を中心にしておりましたが、今年は海外からこの集會のために応募された方が何人もございました。これはこの集會が海外にも知られるようになった結果でありまして、まことにうれしいことと存じます。ただその反面、いよいよとなって来日できなくなる方も出て、先程申し上げたようなプログラムの変更になったのでありますが、これはより一層国際的な交流が盛んになってゆくために通らなければならない過渡期の現象であると考えます。今後はさらに努力をいたしまして、海外からこの集會のために、またはこの集會をきっかけとして研究のために当館に来ていただけるよう、さまざまの面で工夫してまいりたいと存じます。皆様におかれましても今後ともよろしく御協力を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、この両日の皆様の御発表とそれにつづく御討論の実り多いことを念じまして、簡単でございますが、ごあいさつといたします。

国文学研究資料館長

小山弘志

発行

昭和59年3月

編集兼発行者

国文学研究資料館

〒142 東京都品川区豊町1-16-10

電話 (03) 785-7131 (代)